

## CONTENTS

国民文化祭洋学シンポジウム	2
企画展 日本が描いた異国－印刷博物館企画協力－	4
NEWS FILE	5
生誕180年記念企画展 美作の板垣退助と呼ばれた医師 仁木永祐	6
友の会のページ 史跡見学会報告	7
洋学史学会年大会開催	8
第64回文化講演会	9
資料館展示品から	10
新収蔵資料紹介	11
INFORMATION（催し物のご案内）	12

# 洋学 資料館

No. 3

February, 2011



津山市初保の大規模農道交差点の付近です。

その北側の小高い場所に、村医師で自由民権運動に

参画した仁木永祐を顕彰する立派な碑が見えます。

この碑の案内板を整備しようと、今募金活動が

展開されています。

※6,7頁に関連記事



津山洋学資料館  
TSUMOTO ARCHIVE OF WESTERN LEARNING



11月6日、秋晴れの空の下、津山鶴山ホテルを会場に第25回国民文化祭・おかやま2010洋学シンポジウム「江戸時代の国際文化交流～洋学・異国人・異国船～」が開催されました。美作地域が近世後期から明治初期にかけて優れた洋学者を輩出していること、そしてちょうど本年が資料館新館の開館の年でもあったことから、このテーマが設定されました。

講師としてお迎えしたのは竹内誠先生、山本博文先生、大石学先生、磯田道史先生、岩下哲典先生という、近世史研究の第一線で活躍されている先生方です。それでお忙しいスケジュールにもかかわらず、パネリストをお引き受けくださいました。

最初にコーディネーターの竹内先生から、基調報告として江戸における蘭学・洋学受容の拠点となつた長崎屋と須原屋についてお話し下さいました。その後、戦国時代末期に日本を訪れた外国人の見た日本人の印象（山本先生）、幕末に日本を訪れた外国人、ペリーとハリスを映像化する際の考证（大石先生）、洋学者を多く輩出する先進藩となつた津山藩の藩政改革（磯田先生）、箕作阮甫も活躍した江戸時代の日露外交（岩下先生）など様々な角度から、各先生が25分のご報告をされました。参加者には事前にレジュメとともに各先生への質問用紙を配布しており、討論の際には寄せられた質問に先生が回答する形で議論が進められました。

当日は、岡山県内を中心に中・四国、関西、東京などから多くの方が来場され、最新の研究成果をまじえたお話に、「閉鎖的なイメージを持つていた江戸時代の国際関係像が変わり、とても興味深かった」となどの感想がたくさん寄せられました。

### ■基調報告

コーディネーター  
竹内 誠先生（江戸東京博物館館長）  
「江戸の海外情報と出版  
-長崎屋と須原屋-

### ■報告

山本 博文先生（東京大学大学院教授）  
「外国人の見た日本人」

大石 学先生（東京学芸大学教授）  
「ペリー・ハリスと時代考証」

磯田 道史先生（茨城大学准教授）  
「津山藩の変貌 -『先進藩』への軌跡-」

岩下 哲典先生（明海大学教授）  
「ロシア船・ロシア人・箕作阮甫  
-日露交流史と津山の洋学-」

### ■討論

終了後、洋学資料館見学会実施

## 第25回国民文化祭・おかやま2010 あつ晴れ!おかやま国文祭

### 江戸時代の国際文化交流 ～洋学・異国人・異国船～

日時：平成22年11月6日(土)  
会場：津山鶴山ホテル

主催：文化庁、岡山県、岡山県教育委員会、津山市、津山市教育委員会、  
第25回国民文化祭岡山県実行委員会、  
第25回国民文化祭津山市実行委員会



NEWS FILE

## 山田信夫さんより資料館にAED寄贈

中島病院院長の山田信夫さんより、洋学資料館にAED（自動体外式除細動器）が贈られ、10月23日に贈呈式が行われました。

山田先生は華岡流外科を学び幕末から明治に活躍した医師・山田純造のご後裔で、資料館には30年にわたって伝來の資料を寄託してくださっています。新館建設に際しても追加寄託をしていただき、

常設展示を充実させることができました。今回は新館開館にあたつて設備の充実のために寄贈を決められたそうです。館長に目録を手渡し、「まさかの時に役立てほしい」と話されました。

また、12月4日には先生のご手配で、資料館スタッフがAED講習会を受講、修了証を交付されました。

江戸時代、いわゆる「鎖国」政策を行っていた日本は、海外との接触が厳しく制限されていました。しかし唯一の貿易地であった長崎を通じてもたらされる異国の文物や、4年に一度江戸へ参府するオランダ人の姿は、人々的好奇心を刺激し、目にすることのない異国への思いをかき立てました。それを物語るのが、今日残されている様々な印刷物です。

出島を訪れるオランダ人やオランダ船を描いた長崎版画。ペリー来航の情報を伝えた黒船瓦版。そして開国後に開港地・横浜を描いた横浜版画など、本展では、これら異國の人やものを描いた印刷物から、江戸の人々に海外がどのように伝えられ、人々がどのような異国像を抱いていたかを紹介しました。

会期中には3千人近くの方が来場し、観覧した方からは「珍しい異国の品々への驚きが伝わってくる」「当時の人々の異国への憧れを感じられる」、また箕作省吾作の世界地図「新製輿地全図」の版木には「当時の木版彫りの技術の高さに驚く」などの感想が寄せられました。

最後になりましたが、本展の開催に当たり、凸版印刷株式会社印刷博物館をはじめ、明治大学図書館、国立国会図書館、(財)津山社会教育文化財団より貴重な資料を借用させていただきました。ご協力いただきました関係各位に心より御礼申し上げます。

日本が描いた異国  
—印刷博物館企画協力—阿蘭陀人、咬噏吧黑坊  
凸版印刷株式会社印刷博物館蔵

ンダ船を描いた長崎版画。

ペリー来航の情報を伝えた黒船瓦版。そして開国後に

開港地・横浜を描いた横浜版画など、本展では、これ

ら異國の人やものを描いた印刷物から、江戸の人々に海外がどのように伝えられ、人々がどのような異国像を抱いていたかを紹介しました。



## 洋学資料館の建物「中国建築大賞」を受賞!!



洋学資料館の建物が「JIA中国建築大賞」を受賞しました！これは、日本建築家協会（略称JIA）中国支部が、中国地方5県の建造物を対象に優れた建築作品を顕彰するもので、一般建築部門の大賞に選ばれました。

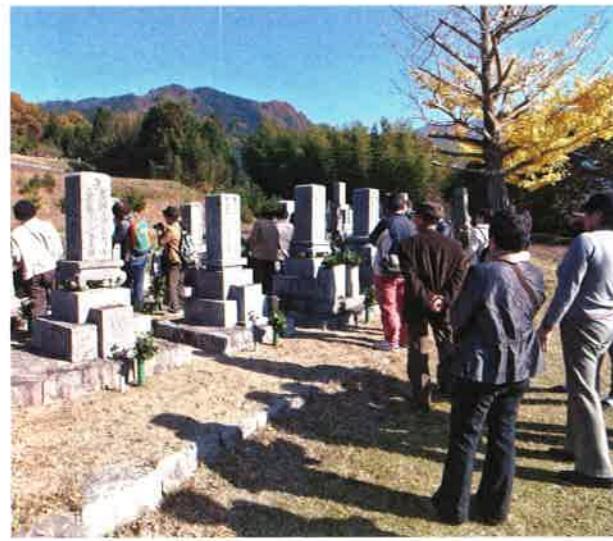
11月13日に倉敷アイビースクエアで行われた同会の大会で発表され、五角形を組み合わ



大会会場での富田玲子先生

せた特徴的な構造や、出雲街道の伝統的な町並みに溶け込んでいることなどが評価されたということです。

授賞式は4月に広島で行われる予定です。



きれいに晴れ渡った晩秋の日曜日、友の会恒例の史跡見学会が開かれました。23回目となる今回は、生誕 180 年の節目に当たる仁木永祐の足跡を訪ねました。

まず、北町の宇田川興斎屋敷跡をバスの車中から見学した後、糀保へ向かい、広域

きれいに晴れ渡った晩秋の日曜日、友の会恒例の史跡見学会が開かれました。23回目となる今回は、生誕 180 年の節目に当たる仁木永祐の足跡を訪ねました。

仁木永祐の足跡を訪ねて



農道沿いの丘に建つ永祐の顕彰碑と、その奥の糀山躉跡・仁木家墓所・屋敷を訪ねました。現地では、仁木家のご後裔の方がご案内くださいました。

次に、バスを加茂へと走らせ、永祐が生まれた下津川を訪ね、生家豊田家のご後裔の方に、墓所と屋敷跡をご案内いただきました。その後、ウツディハウス加茂で昼食を取つてから津山へ帰り、無事日程を終えました。

参加者の皆様には、永祐の足跡をたどることで、彼を感じただけたのではないかでしょうか。当日、快く現地をご案内くださった関係者の皆様に、改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

## 顕彰碑に案内解説板を!! 記念事業会発足



前ページでご報告している企画展が開幕した 11 月 28 日、仁木永祐生誕 180 年記念事業会の発足式が、当館の図書室で開催されました。

かつて永祐が暮らしていた糀保には、1926(大正 15)年に建てられた大きな顕彰碑がありますが、漢文で読みづらいこともあります。そこで、改めて彼を顕彰するため、地元町内会や仁木家ご後裔をはじめ津山市医師会、洋学資料館友の会などの有志がつどい、中島壮太さんを会長として、記念事業会が組織されました。今後、3 月まで募金活動を行い、案内板を現地に設置して、4 月の桜の咲く頃に除幕の予定です。

## 生誕 180 年記念企画展 美作の板垣退助と呼ばれた医師 仁木永祐



**展示概要**  
ご後裔の仁木家には、永祐が使った医療器具や医学書、着用した

地域の先人でもあり、地元町内をはじめ市民の皆さんが多い数訪れる、認識を新たにされているようです。永祐の業績を永く語り継いでいくうえで、本展が少しでも役に立てれば幸いです。見学がまだの方は、会期中にぜひお越しください。

企画展図録『美作の板垣退助と呼ばれた医師 仁木永祐』好評発売中!



第64回 文化講演会

## 「プラントハンターの活躍 ～日本からヨーロッパに運び出された植物～」

講師 獨協大学教授 加藤信重 先生

1月の最後の日曜日、第64回文化講演会が開催されました。講師にお迎えしたのは獨協大学教授の加藤信重先生です。先生は東京牧野標本館の客員研究教授も勤めておられ、同館や、またオランダの国立標本館が所蔵するシーボルトの集めた標本コレクションを研究されています。今回は、薬用や食用、観賞用となる植物を採集するため世界を巡ったプラントハンターについてお話しいただきました。

最初に先生は19世紀の日本が珍しい植物が採集できる「プランティングエリア」であったと切り出されました。鎖国下で、また言葉の壁もある非常に難しい状況のもと、ツュンベルク、ケンペルが日本を訪れて植物を持ち帰ります。彼らの採集品を見て来日したのが、プラントハンターの先駆であるシーボルトです。

今でも残るシーボルトのコレクションには5メートルもある昆布、冬虫夏草、寒天などの珍しい標本や、日本人学者の贈ったものもあり、映し出される映像に聴講された皆さんも感嘆の声をあげていました。

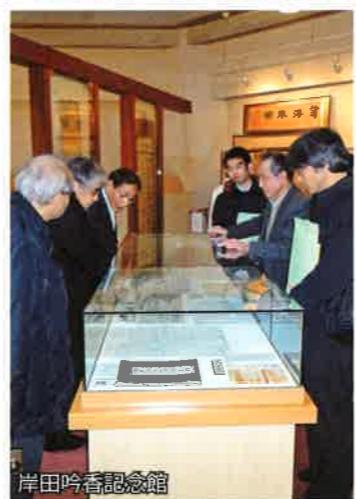
また、ハンターたちの持ち出した日本原産の植物が、現在オランダの民家の庭や、花屋、離宮を飾っていることを紹介されました。

最後に、一枚の標本からたくさんの新しい情報が読み取れるのであり、古いものも大事にすることを強調されてお話を締めくくられました。

当時は時折雪の舞うあいにくの空模様でしたが、歴史や植物の爱好者の方など約90名が参加され、時折メモを取りながら熱心にお話に聞き入っていました。



史跡見学会 石阪桑龜墓所



岸田吟香記念館



2010年度 洋学史学会年大会 開催

12月11日（土）・12日（日）の2日間、資料館で洋学史学会の年大会が開かれました。同学会の津山での開催は、平成4年、17年に統いて3回目です。洋学資料館は学会の団体会員でもあり、今回は新館開館を祝しての津山大会となりました。

11日の大会では、冒頭に館長が洋学資料館の歴史を紹介した特別講演を行い、その後、学会会長で東京学芸大学名誉教授・大沢先生の講演、そして研究発表がありました。全国から集まつた専門家約50名が参加し、質疑応答も活発に行われました。

夜には津山国際ホテル鶴泉苑で懇親会を開き、最新の研究成果について情報交換を行うなど、旧交を深めました。

12日は史跡見学会が行われ、岸田吟香記念館（美咲町）、石井宗謙生誕地（真庭市）、石阪桑龜墓所（岡山市）、難波抱節塾跡、緒方洪庵生誕地など、津山以南の主な洋学関係史跡を巡りました。

大会は市民の皆さんにも開放され、洋学研究の最先端に触れていただくとともに、全国の研究者への洋学資料館新館PRの良い機会にできただと 思います。

## ■ プログラム

### 11日（土）

- 特別講演 津山洋学資料館館長 下山純正
- 会長講演 大沢眞澄氏「本邦における温泉水化学分析の展開  
—シーボルト、ビュルガーから宇田川榕菴への流れ—」
- 一般発表 加藤信重氏「シーボルトコレクションにある  
M・アルブレヒトの採集品」  
山口隆男氏「宇田川榕菴とシーボルト」  
平野 恵氏「西洋式温床の受容」  
野藤 妙氏「川原慶賀『日本人の一生』の制作について」  
宮崎克則氏「シーボルト『NIPPON』の  
原画・版下・製版」  
町泉寿郎氏「シーボルトの鍼灸関係資料について」  
石田純郎氏「上野公園人違いボードイン像の顛末  
—37年目の全面解決」  
八耳俊文氏「入華医療宣教師 D.J.Macgowan の  
1859年日本体験」

### 12日（日）

史跡見学会（県内の主な洋学関係史跡）



## 新収蔵資料紹介

### 寄 託

#### ■ 石田家資料一括

計80件 165点

奥津（今の鏡野町）で医家を営んでいた石田家に伝わる資料です。石田家からは幕末に京都で活躍した大村達斎が生まれました。資料のうち、写真15点は大村達斎関係のものが多く、書籍類は幕末から明治初期にかけての医学書が多数を占めています。鎌倉市在住の石田望さんからご寄託いただきました。



#### ■ 山田家資料一括

計855件 1025点

英田郡海田村（今の美作市）で代々医家「仙巖堂」を営んでいた山田家に伝わる、江戸後期から明治・大正にかけての医療器具です。資料館には以前から華岡青洲肖像画などと外科器具などが追加されました。当時の医家の暮らしを知る上で貴重な資料です。津山市在住の山田信夫さんよりご寄託いただきました。



### 寄 贈

#### ■ 薬看板1点

計106件 120点

全長157センチ、幅82センチもある木製の大きな看板で、薬局の軒先に吊るされていたものです。東京都在住の箕作秋次さんよりご寄託いただきました。



#### ■ 箕作家資料一括

計106件 120点

箕作阮甫の『和蘭文典』、箕作麟祥の『泰西勸善勲蒙』など箕作家の著作のほか、『箕作佳吉君について』と題された自筆本です。また、箕作佳吉などに宛てられた書簡75点には、父の秋坪や兄弟の元八、そして坪井の大麓、正五郎、日高秩父などの親族から送られたものがあり

病院や学校の理科室などで、人体の骨格模型、いわゆる「ガイコツ」を一度は目にしたことがあるでしょう。当館の常設展示室にも、その「ガイコツ」があります。こしらえた医者の名前を取つて「星野木骨」と呼ばれるものの複製です。新館建設の際に、大幅に充実が図られた常設展示の目玉の一つです。今回は、この資料をご紹介します。

「星野木骨」は、1792（寛政4）年に広島の星野良悦という町医師が職人に作りさせた、日本初の木製の骨格模型です。骨格を熟知すれば、さまざまな治療の場面で役立つに違いないと気づいた良悦は、人骨を埋葬せず手元に置くことが禁じられていました。そのため、その模型を作ることで医術の発展に役立てようとしたのです。藩に何度も願い出た末にもらい受けた刑死体を蒸して、皮や肉を取り除き、水で洗い日にさらして得た本物の人骨を参考にして、細工職人に木製の模型制作を依頼し、約1年後に完成しました。

1798（寛政10）年、良悦は木骨を江戸に持参し、杉田玄白・大槻玄沢らの蘭学者に見せたところ、一同からたいへん称賛されました。見た目のインパクトもさることながら、当時の蘭学・医学の研究に与えた影響は、非常に大きかったのです。現代の私たちが健康に暮らせるのは、この時期に行われた詳細な人体観察のおかげと言えます。そうした人体観察の成果の一つが、この「星野木骨」なのです。

※重要文化財「星野木骨」は広島大学医学部に所蔵され、その許可を得て複製制作・展示しています。

文：学芸員 小島 啓

## 資料館展示品から

杉田玄白ら蘭学者をうなさせた

### 『星野木骨』(複製)



▲常設展示室でひときわ存在感を放つ「星野木骨」の複製

## INFORMATION

### 平成23年度の催し物

### 企画展

<p>■企画展「彩生 - オランダ伝統の技と美 - 」            ■2 ワークショップ「春桜～チェンバロの音色と共に～」            ■23 第65回文化講演会            講師：kinuko ヒンダローベンスタジオ主宰 永江絹子 先生            ■23 友の会総会            (休館日：4・11・18・25・30日)</p>	<p>■企画展「資料が秘めた物語」            ■燻蒸作業にともなう休館（下旬～7月上旬予定）            (休館日：6・13・20・27日・燻蒸期間)            ■ヒンデローペン絵付け体験教室（中旬～下旬予定）            (休館日：燻蒸期間・4・11・19・20・25日)            ■江戸時代の化学書からの再現実験（上旬～中旬予定）            (休館日：1・8・15・22・29日)</p>	<p>■企画展「蛮書和解御用と津山藩の洋学者」            (休館日：3・11・12・17・24・31日)            ■友の会創立30周年記念セレモニー            ■友の会史跡見学会            (休館日：4・7・14・21・24・28日)            ■企画展「光後玉江と美咲町出身の蘭方医たち（仮）」            (休館日：5・12・19・24・26～31日)            ■友の会30周年記念誌刊行            ■第66回文化講演会            講師：佐賀大学大学院教授 青木歳幸先生            (休館日：1～4・10・11・16・23・30日)</p>	<p>■企画展「光後玉江と美咲町出身の蘭方医たち（仮）」            (休館日：6・13・14・20・27日)            ■友の会（休館日：5・12・19・21・26日）</p>
		<p>4/2～ 彩生 ・オランダ伝統の技と美 ～5/29</p>	
		<p>6月上旬 資料が 秘めた 物語</p>	
		<p>10月上旬 10月中旬 津山藩の 洋学者と 11月下旬</p>	
		<p>12月上旬 光後玉江と 美咲町出身の 蘭方医たち（仮）</p>	
		<p>3月下旬</p>	

■企画展 ■催し物 ■講演会 ■友の会

### ご利用案内

- 開館時間／9:00～17:00  
(入館は16:30まで)
- 休館日／月曜日（祝祭日の場合はその翌日）  
祝祭日の翌日・年末年始（12月27日～1月4日）
- 入館料／
 

一般	高校生・大学生
300円 (240円)	200円 (160円)

※（ ）内は30名以上の団体料金です。  
※小学生・中学生は無料です。



**津山洋学資料館**  
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地  
TEL(0868)23-3324 FAX(0868)23-9864  
URL <http://www.tsuyama-yougaku.jp>



### ●交通のご案内

- ・JR津山駅から東循環ごんごバス南廻り線で10分、西新町下車徒歩2分
- ・中国自動車道 津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分

### 平成23年春季企画展

## 彩生 - オランダ伝統の技と美 -

Kinuko ヒンダローベンスタジオ  
創立20周年記念作品展

会期 4月2日(土)～5月29日(日)

会場 洋学資料館企画展示室

ヒンデローペンはオランダ北部の港町で発達した伝統工芸で、洋学資料館の展示室もこの装飾技法で絵付けされています。その絵付けを担当されたkinuko ヒンダローベンスタジオの永江絹子先生の作品展です。



期間中ワークショップや文化講演会などの関連イベントも開催します。ご期待下さい！

### お知らせ

平成23年1月より下記のとおり入館料が改訂されましたのでお知らせします。

小学生・中学生 100円 → 無料